

「情報化時代の言語文化」授業評価報告

所属講座：国語・氏名：佐藤栄作

1. 授業の概要

(1) 授業の目的

高度情報化時代に生きる国際人として理解しておくべき日本語についての知識、情報機器やメディアが言語に及ぼす影響について学ぶ。

(2) 到達目標

高度な情報化が、言語(日本語)に何をもたらし、何を奪おうとしているのかについて、自分なりに把握でき、説明できる。

(3) 授業の概要

ケータイ、パソコン、テレビ、マンガなど現代日本において、言語に大きな影響を与えつつあると思われるモノを採り上げ、いかなる影響を与えているか、皆で考え、議論し、日本語の近未来を予想した。

2. 受講生数

28名(国際理解教育14名、情報教育12名、学校教育2名)

3. 学生の評価

学生アンケート(26名)の結果

最も印象に残ったこと(複数回答)

「マンガ」15名、「テレビ・マスメディア」5名、「ワープロ」4名、「流行語」3名、「命名」3名、「ケータイ」2名、その他1名、未記入3名。

日本語への興味・関心は

かなり高まった…………… 11名

少し高まった…………… 15名

高まらなかった…………… 0名

情報化社会への興味・関心は

かなり高まった…………… 5名

少し高まった…………… 19名

高まらなかった…………… 2名

社会で役立つと思ったことは

いくつもあった…………… 6名

少しあった…………… 19名

なかった…………… 1名

それはどんなこと(主なものを抜粋)

「何気なく使っている日本語の裏側に興味

が持てた」「言語の奥深さを知り、言葉を利用していく中で楽しみが増えたように思う」「日本語に対する見方が変わった」「普通の生活で話す時や書く時に面白くなる」「マスコミ関係や広告関係に行けば役立ちそうな情報があった」「話題が増えてよかった」「何気ない日常に以前よりも目を向けられるような気がする」など……未記入5名

不満点、改善点

「資料の大きさを統一して」「マンガについてももっと時間を」 特になし7名、未記入17名。

4. 自己評価

後半で扱ったマンガの印象が強かったようだ。『名探偵コナン』を用いて日英中韓の擬態語の比較をやったからだろう。その分、前半で時間を割いた「ケータイと打ち言葉」が遠くへ押しやられてしまった。

アンケート結果はここ数年では一番よかった。少なくとも、日本語に関する科目としては合格点ではないかと思う。パソコンやケータイを実際に使用したことも好感の原因だろう。さらに充実させたい。

役立つことについての自由記述で、「新しい見方」といった回答が複数見られたのはうれしかった。

一方、雑学的な知識(話の種)を挙げる者もいた。確かに、日本語教師や国語教員を目指さない者にとって、この講義の内容は「教養」としての色合いが強く感じられて不思議ではない。

実は平成20年度入学生から、この科目は消滅する。新課程では日本語学の入門である「日本語概説」が課程選択必修となる。本講義の内容も一部取り入れたい。また新設科目「日本語と日本事情」でも一部引き継ぎたい。

あるいは、本科目は、共通教育科目として存続すべきなのかもしれない。この点については、最終回である次年度、実施しながら検討してみたい。